

私のミルフォードトランピング

最高点マッキノンパスへ

1時間で到着したグレイドワーフ桟橋はテアナウダウンズ同様、着船して人が岸まで歩ける橋があるだけで待合室もベンチもなく、これがミルフォードトラックの出発点かと思いたくなる程だが、ブナ林の奥へ続く道の入り口にはDOCの濃緑の基板に黄文字で Milford Track Gladehouse ↑ 20min.の表示があった。紛れもなく此処はミルフォードトラック 33.5 マイル (54km) の記念すべき出発点である。

此のプレートの前で急ぎ写真を撮って雨の中の一步を踏み出す、幅 2mほどの平坦な道を 15 分程進むと前が開けて初日の宿舎グレイドハウスが見えた。



テアナウダウンズ発



グレイドワーフ出発



ミルフォードトラック概念図



ブナ林に行く



グレイドハウス到着

ハウス迄 1.2km、標高 210m、部屋に荷物を置いてロスのガイドでネイチャーウォークだが、最初に戸外でこの国の特殊な生い立ちとそれに伴う鳥類の進化などの話があって小屋の裏手の森へウォーキング、雨は続いており余り有難くなかったが、幾つかの木には名札が下がっていて説明がある。ブナ Beech は日本のものとは違う、30mの巨木になるレッドビーチ、シルバービーチ、それに山岳部にはマウンテンビーチ、シダ類 Fern はオールブラックスのロゴマーク、シルバーファーンやニュージーランド航空のコル（シダの新芽）に代表される象徴的なもの、そして一面に広がるモス Moss（苔）地衣類などと真に豊富な植物相だが特に記憶に残ったのはペッパートリーとランスウッドだった。



シルバーファーン



コル



ランスウッド幼木・成木



モア

前者はその名のごとく葉を噛んでみると香辛料のピリ辛さを感じたが、後者は幼木の時は尖った槍（Lance）のような葉が 4m 以上（通常 15m 高）に成長すると広がって短くなるという不思議な進化を遂げている、これはマオリが食用に狩った為絶滅した飛べない巨鳥モア Moa が食べようとしても届かない高さになってから葉を広げると言われている。狭い山道の歩行は少しハードだったが 1 時間半ばかりのネイチャーウォークを終えて夕食を済ませた後、初日ということもあり談話室でメンバーの交流会が開かれた。ガイドの指名により国ごとの参加者が自己紹介の挨拶、我等 19 名のグループは山好きの集まりであることを述べて、かかることもあろうかと準備した「雪山讃歌」（Oh my Darling, Clementine）を歌って喝采を浴びた。



雪山讃歌



黒板に歓迎の掲示

ミルフォードトラックの小屋 Hut (インデペンデントとガイドドは別の小屋) はどの小屋も設備がしっかりしていて全く心配することはない。 食堂、談話室、洗濯乾燥室、シャワー、トイレ、寝室には 2 段ベッドが 3 つ、それぞれステーションで渡されたシートに身体を入れ毛布を掛けてやすむ。 朝食はバイキングだがその前に各自が好みの食材を使って昼食用にサンドイッチなどを作り果物、嗜好品を選ぶ、このランチ作りの作業は大変楽しい。 夕食前に (初日のみ夕食後) 約 30 分、ガイドからスライドを使って翌日のコース説明があり、予約 (2 種類のメインディッシュから選択) した食事を済ませて 9:30pm 消灯になる。 尚、全行程中の禁忌として花や苔など植物を取らないこと、ケア Kea (野生のオウム) に餌をやらないこと、歩行中川や水たまりで靴を脱がないこと、全ロッジ内禁煙が定められていた。

12 月 13 日 (金) 7:00am 前自家発電の点灯があって行動開始、洗面ランチ作りを済ませて朝食、出発の 9:00am にはやっぱり雨、正面に見える筈の山ザ・センチネル (番人) もすっかり霞んでいる。



霞むセンチネル



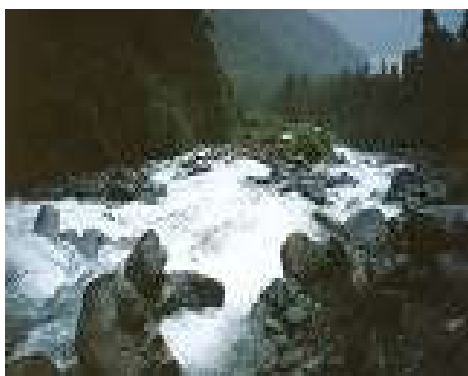
吊り橋でクリントン川右岸へ

今日の目標ポンポローナロッジ迄 16.1 km、三々五々歩き始めて直ぐクリントン川にかかる吊り橋を渡って右岸を遡上、樹間に見え隠れする激流に沿って約 50 分歩いた所でリュックを道端に置き (トレイルを外れるときのルール) 左の脇道に入る、15 分程の周回路ウェットランドウオーク Wetland Walk は木道の両側に広がる湿地帯で言語に絶する幻想的な世界を広げていた。

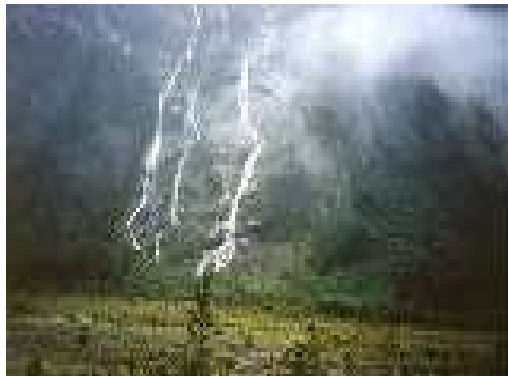


木道周回路ウェットランドウォーク

レッド・アルギ、レッド・キャップスなど無数の地衣類、ゴブリン・モスなどの苔類、それらが錦を織りなす景色はこの場所でしか見ることのできないものだった。この後数マイルは昔の馬車道で広い平坦な道だがやがてクリントン溪谷の西俣に入ると登りが始まり開拓者たちが「垂直の谷：the Valley of the Perpendicular」と名付けた 4000 フィートを超す long cliff 長い岩壁の下を進む、崖の上からは雨に勢いを増した無数の滝が降り注いでいる。日本で最大の落差を持つのは那智の滝の 133mだが、とても問題にならない高みからの滝のオンパレードは息をのむ光景だ。道は黒い森 the Black Forest を過ぎて 6 マイルスリップに差し掛かる、此处は数百万トンの岩が崩れ落ちてクリントン川を堰き止めてしまった所で右側に出来たデッドレイク（死の湖）は大正池のように枯れ木が林立しおどろおどろしい様を呈していた。



アーサー川の激流



ロングクリフから落ちる滝



滝の下で一休み



枯れ木が林立するデッドレイク

昼食用シェルターのヒレレフォールズ Hirere Falls shelter (305m) に着いたのは午後 1 時前、混んでいるうえに雨でベンチはびしょ濡れ、座れないのでレインウェアを付けたまま熱いスープを貰ってサンドイッチの立ち食い、ニュージーランドの固有種で雪山でも暮らせるオウムのケア Kea や



雨宿り



Kea ケア



ニュージーランドピジョン

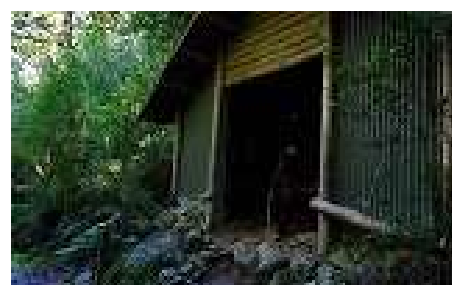
ニュージーランドピジョンも雨宿りしていた。 シェルターの右へ少し歩けばヒレレ滝を見られるらしいが時間が押しているのでトレイルを直進、9 マイルを過ぎてプレイリーThe Prairie (大草原) に出る、ロスの話では右手のブッシュで生後 2 週間くらいのキウイの雛が育っていてカメラで常時監視しているとのことだ。 それにしてもこのルート of 各所にある DOC の距離表示がマイルで示されるのはイギリス宗主国以来の伝統を守り続けているからなのだろうか。 道は雨でほぼ全面水浸し、初めは何とか水のない所を探したが、それは徒労に過ぎないと判って水の中をジャブジャブ歩く、私の登山靴はかなり防水性の良いものの筈だがさすがに連日の雨中歩行で靴の中はすっかり濡れてしまった。 草原を過ぎると“no stopping”の標識、この辺りは雪崩警戒区域で重い雪



プレイリー標識



広々とした草原プレイリー



バスストップ

の大規模な雪崩（1000mの高さから時速 200kmで地面に衝突）がクレーターを作り、それがヒドンレイクやプレイリーレイクになっている。然しこの様な雪崩の事故は 110 年前に起こったのみで今はモニターで常時監視しており、危険時にはハイカーを通さない。これらの池は夏の絶好のプールらしいが、我等は雨と寒さでそれどころではなかった。山の峰々は雪を冠し、数えきれない滝の落下が続く、10 マイル標識の後、ブナ林を左の崖に沿って上がると何と“Bus Stop”こんな所にどうやってバスが来るの？と思ったら此处はこの先のマーリーズクリークが増水して渡渉不能になった時の退避場所だった。 その場所は雨で若干の増水はあったものの我等はストップする必要はなく渡渉して 3:00pm 過ぎにポンポローナロッジ Pompolona Lodge (標高 410m) に到着した。



ポンポローナロッジ



雨の中やっと到着



階段で繋がるロッジ

雨に濡れた我等を管理人夫人はハグして歓迎してくれ、直ぐに振舞われた熱いポタージュは身も心も温めてくれた。

此のロッジは斜面に建っていて階段廊下が幾つかの建物を繋いでいる。 食堂、ロビー、乾燥室等メインの部屋は一番下の建屋にあり、私の部屋は一番上だったので此の階段廊下を何度も上がり下りすることになった。 特に山靴、レインウェア、リュックは何としても乾かしておきたい。 ガイドから乾燥室の温度は非常に高いので急速乾燥すると靴は縮んで履けなくなったりウェアが溶けてしまったりすると注意されていたが部屋ではとても乾かないのでやはり乾燥室に入れて頻繁に様子を見に行くしかなかった。



ポンポローナロッジで我等 19 名の記念写真



雪が降ってきて明日が心配

スライドで明日歩くコース最高所マッキノンパスの様子等を見てグラスワインを飲んでから夕食、チョイスしたパスタのボリュームがすごい。 兎に角寒いのでロビーの暖炉にへばりついていたらポケットのコンパクトカメラが熱くなり動かなくなってしまったのは大失敗。 外の雨は曇になりやがて雪になった気配、明日は大丈夫だろうか。

12月14日(土) 6:30am に起きたが雪が続いている、例によって昼食用のサンドイッチを作ってから朝食、ハムエッグとパンにはバターとジャムと思ったが数種類のポーションの中に Vegemite というのがあったので試してみた。 野菜を発酵させて味噌状にしたものでこの国の朝食用食品、納豆好きの私には好みの味でこの先何度も味わうことになった。



ベジマイト



一人制限の吊り橋



ミンタロ湖マッキノンパス遠望



マッキノンパスへ 11 曲がり

今日の目標クインティンロッジ迄 14.9km、早立ちの筈の出発時間になったが一向にゴーサインが出ない、ヘリで道路状況調査中という、此处まで来てマッキノンパスを越えられなければ残念至極と思っていたら、ほぼ 1 時間遅れの 8:35am になってやっと出発、取り敢えず 4.4km 先のミンタロハット Mintaro Hut (標高 615m) までゆっくり行き、その後は状況判断して決めるとのこと、

若し駄目なときは大型ヘリでクインティンロッジへ飛ぶと聞いたがやはりここは自分の足で歩き通したい。一旦止んでいた雪が又降り始め周りの雪は多くなるが道の雪はさして深くないのでミントロハットへは寄らずにそのまま歩き続ける。右手にミントロ湖を見てクリントン川源流の吊り橋を渡るが、橋上1人限度 Limit one Person の表示がある危なっかしさ、そして14マイル標識からいよいよ名物の登り開始となる。標高差500m、4kmを11回のジグザグで登るのだが、雪はあってもしっかりした道なので困難さはない、それでも初めて登山の気分を味わえた。



ラージマウンテンデイジー



マウントクックリリー



真下にミントロ湖

山側の雪の中にラージマウンテンデイジーを見かけたと思ったら今度は待望のマウントクックリリー、マウントクックトレッキングの際に見ることが出来ず残念だっただけに感激も一入だった。眼下にミントロ湖を俯瞰、更に上がると我等が歩いてきたクリントンバレーが一面に広がる、何万年もかけて氷河が削り作り上げた圏谷、フィヨルドランドが白銀に飾られて素晴らしい。



クリントンバレーを見下ろす



マッキノンパス 1073mモニュメント



モニュメント刻印



バルーン山 1853m



スティーブン湖

少し傾斜が緩くなったと思ったら十字架を頂く大きなモニュメントが見えてきた。1888年クインティン・マッキノンとアーネスト・ミッチェルがこの峠 Mackinnon Pass 1073m に立ったことを

記念するモニュメントが寒々と建っていた。 後続確認のため暫し休憩、前に小さなスティーブン湖、左手にエリオット山 2003m、右手にバルーン山 1853mが煙って見える、アーサーバレー側直下にはクインティンロッジも見えるかと思ったがこの天候では無理だった。 ガイドのロスが急に駆け出したので何事かと思ったら、何とケアが彼のリュックを咥えて飛んでいる、その凄い力には吃驚したがいたずら好きのケアにはよくあることらしかった。



ケアを追うロス



ハイエストポイント



パスハットへ向かう

少し先にハイエストポイント 1146mがあり、一寸下ったところにパスハット Pass Hut (標高 1120 m) がある、混んでいたが熱いスープを何度もお替りして昼食をとる、此处は風の強い場所でこの小屋は何回も吹き飛ばされたので今はワイヤーで確り固定されている。 ランチを終えて休んでいたら、何時も元気な S 夫人がふらふらになって入ってきた、仲間の女性たちが濡れた下着を着せ替えたり身体をさすったりして看病、なんでも風邪気味だったので倍量の風邪薬を飲んだためらしい。 ヘリを呼ぶほどでなく、何とか持ちそうというのでガイドさんたちに任せて先を急ぐことにした。(続く)

【2020 年 4 月 28 日 山本 浩 リメイク版】